



ポメラニアンで気をつけたい病気は？

■ポメラニアンの疾患統計

2004年4月1日から2008年3月31日までにアニコムクラブの共済契約に加入したポメラニアンは19,855頭で、品種別に比較すると10番目に多い。犬全体の発症率と比較してポメラニアンの発症率が高い疾患は、18分類中9疾患あった。その中でも、特に高い疾患は、

呼吸器疾患 2.6倍、

循環器疾患 2.2倍、

血液・免疫疾患 1.7倍、

歯・口腔の疾患 1.5倍、

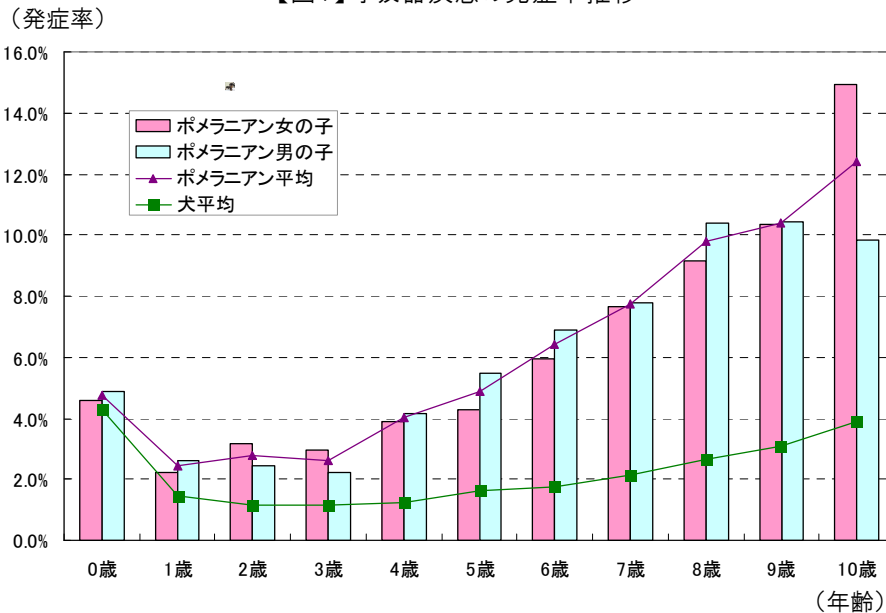
であった(表1)。

【表1】ポメラニアンと犬全体の疾患別発症率の比較

		ポメラニアン(a)	犬全体(b)	a/b
		19,855頭	681,039	
1	02. 呼吸器疾患	5.8%	2.2%	2.6
2	01. 循環器疾患	9.4%	4.3%	2.2
3	13. 血液・免疫疾患	0.6%	0.4%	1.7
4	10. 歯・口腔疾患	3.1%	2.1%	1.5
5	04. 肝・胆道疾患	4.2%	3.0%	1.4
6	14. 内分泌疾患	2.0%	1.6%	1.2
7	11. 筋骨格系疾患	7.0%	5.8%	1.2
8	07. 神経疾患	2.1%	1.9%	1.1
9	06. 生殖器系疾患	2.1%	1.9%	1.1

そのうち、ポメラニアンに特徴的に発症率が高い**呼吸器疾患**について、年齢推移を見てみたところ(図1)、4歳以降犬全体の発症率との差が**3倍以上**にひらいていることが分かった。

【図1】呼吸器疾患の発症率推移



※ 2004年4月1日から2008年3月31日までにアニコムクラブの共済制度に加入したどうぶつのうち、契約期間が1年間で、契約満了または死亡解約となった犬681,039頭(男の子364,423頭、女の子316,616頭)を対象に調査。

※契約満了または死亡解約となった各個体の1年毎の契約について、その契約が開始した年齢毎に1契約=1頭とみなし、当該疾病について1回以上の請求があった犬の割合を発症率とした。

ポメラニアンは、**呼吸器疾患と循環器疾患**に特に注意が必要！

